

【フォーバイフォーマガジン】

# 4x4MAG

## OFF ROAD EXPRESS

4

Apr. 2009  
4x4MAGAZINE  
直 販



中古車特集

# 「激安」の背景は？

今が底値のユーズドカーで「夢」を掴め！



巻頭SPECIAL

*LandCruiser in Australia*

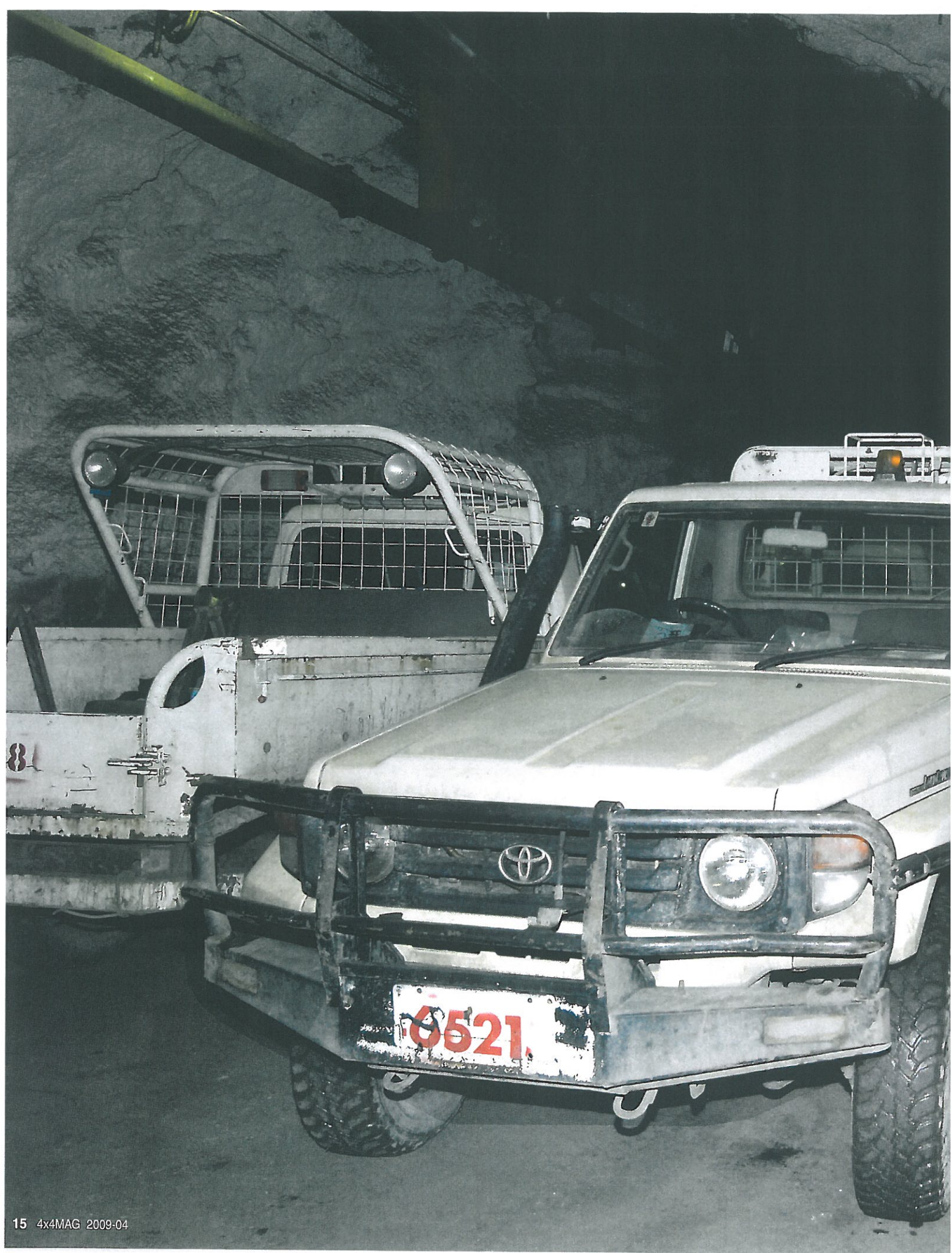
# 太陽を見ぬランクル

“ランドクルーザー第二の故郷、と呼ばれるオーストラリア  
そこにランドクルーザーの本格的な輸入が始まって50年が経過した  
砂漠地帯が広がる内陸部アウトバックは“トヨタ・カントリー”とも呼ばれ  
そこでトヨタといえばランドクルーザーを指す  
牧場、鉱山、農場、役所…、ありとあらゆるところでランドクルーザーが働く  
これはオーストラリアとランドクルーザーに魅せられたカメラマンの取材記録だ

文・写真／難波 毅

鉱石を採掘するための重機やロード・ホー  
ル・ダンプの他に地下で働くのはランドク  
ルーザーだけだ。鉱山内での人員の移動、  
坑道の維持管理補修、機材や資材の運搬な  
どありとあらゆる場面で活躍する。







## 念願のマウント・アイザへ

アウトバックの地下で一生を過ごすランドクルーザーの存在を知ったのは、初めてオーストラリアの取材に行った1986年だった。それから20数年を経て、その姿を映像として収録したいと、北東部クイーンズランド州のマウント・アイザ鉱山に取材を申し込んだ。ここは世界最大の地下銅鉱山で、最も新しく発見された銅鉱床があるエンタープライズ地下鉱山は坑道がなんと地下1900メートルに達するオーストラリア最長の鉱山だ。

2008年3月、エアコンも付いていないFJ45で、メルボルンから3000キロ離れたマウント・アイザ鉱山に向かった。現地は夏の終わりだったが、40度を超える暑さでカラカラに乾いていた。

取材予定日の前日に来てくれということで広報担当者の

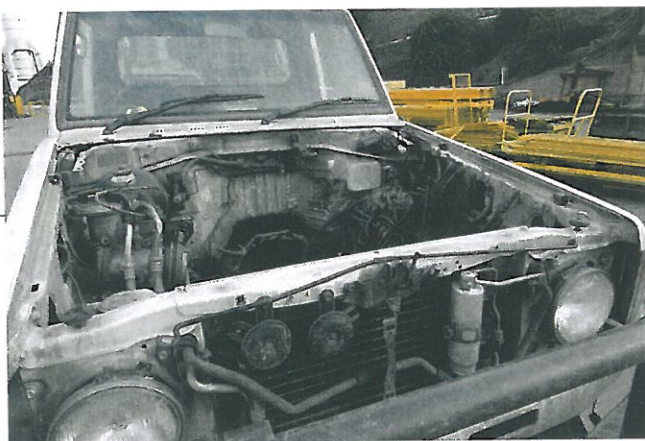
オフィスを訪ねた。そこで待ち受けていたのは地下入坑のための安全講習だった。別室で英語のビデオを見て、簡単なレクチャーの後、なんとペーパーテストまで用意されていた。

取材当日は更衣室でオレンジ色の作業服に着替え体に合うサイズを見つめるのがひと苦勞、頭にはヘルメットと大きなヘッドライト、腰には重くて大きなバッテリー、さらには緊急用酸素発生装置を装備する。その大きさと重量たるや半端ではなかった。

取材用には後部座席への乗り降りが楽なように、3ドアに改造されたHJ78トウルーブキャリアが用意された。地下へ下りるシャフト(エレベーター)の順番を待つ。我々の前には作業用の機材を積んだランドクルーザー・ユートが並んでいる。オーストラリアではピックアップをユート(Ute)と呼ぶ。ユーティリティ(Utility)の略だ。

ふと横を見ると、部品をはずされ無残な姿をさらす2台のランドクルーザーが寂しく放置されていた。地下での任務を終えて引退するところだった。主要な部品はすべてはずされ、まさに「骨と皮」になっていた。「無残」というよりは「良く働いたな」というねぎらいの気持ちが強かった。

地下で酷使され、2年ぶりに地上に「帰還」したランドクルーザー。エンジン、ステアリングメインシャフト、ドアパネル、シュノーケル、グリル、エンジンフードなど、利用価値の残る部品がはずされ引退の日を迎えた。



4柱リフトが並ぶ地下1,000メートルのワークショップ。このようなピットが4か所並ぶ。オイル交換などの日常点検からアクスルやスプリングの交換、燃料タンクの手入れなどが24時間体制で行われている。



町の真ん中にあるマウント・アイザ鉱山。この地下に鉛、亜鉛、銅、銀の鉱山が広がる。銅鉱石はここでの製錬後、東海岸のタウンズビルへ運ばれる。そこで99.995%の純度に精錬され日本を含む14か国に輸出される。

前後にハイジャッキを装備した高所作業用 HZJ79。キャブシャシーに油圧で上下する作業台が架装されている。坑道の天井にある照明やダクト、配管などの交換、修理などに使われる、なくてはならない作業車である。







現状よりさらに170メートル、地表からの深さ570メートルまで採掘される予定のアーネスト・ヘンリー鉱山。それでも現在のペースでは2010年には掘りつくすという。昨年からは地下鉱山の試掘が開始され、寿命は数倍延びると期待されている。

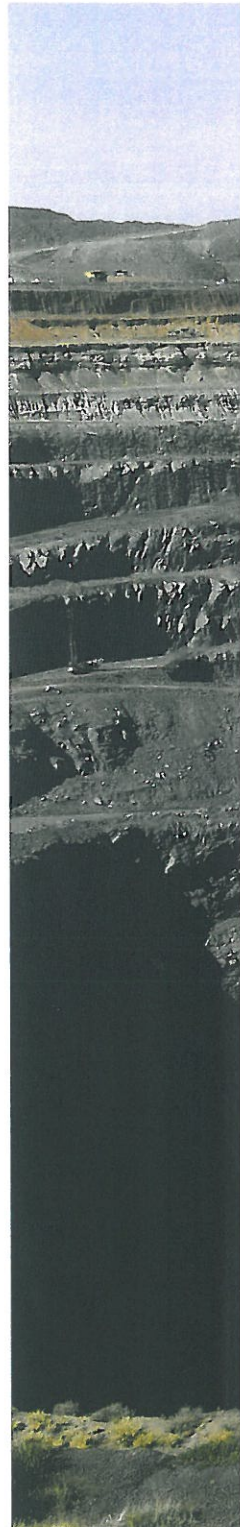
#### 地下1600メートル

2分ほどでケージは地下960メートルの19番ベンチへ到達した。クルマはさらに地下坑道を30Aベンチへと下る。そこはなんと地下1600メートル、もちろん送風はされているので息苦しくはないが、湿度が高くむとした空気が体中にまとわりつく。足元には水が流れ、所々にギザギザの岩が鋭く突き出る。ジャンボと呼ばれるドリルマシンが岩盤にボルトを打ち込み落盤を防ぐ作業をしている脇を、切羽から銅鉱石を運んでくる大型のロード・ホール・ダンパがヘッドライトで闇を切り裂きながら目の前を通過してクラッシュャーへと進んでいく。もうもうたるほこりを上げ、狭い坑道をかなり頻繁に行き来するうえ、暗い中で足場も悪く撮影にも危険がともなう。

地下1000メートルには作業員のための休憩施設、給油所、重機のワークショッブ、そして「ライト・ビークル(Light vehicle)」と呼ばれるランドクルーザーのワークショッブがある。これらの区画はすべて空調が完備され、快適に作業ができる環境が整えられている。

地下で働くランドクルーザーはデイズェルの70系ロングホイールベース車だ。荷台の上に後ろ向きに座るシートを





取り付けした人員運搬用モデル、伸縮する高所作業台を取り付けたモデル、機資材を運ぶフットベットのモデル、3枚ドアのトウルーブキャリアとさまざまだ。

1970年代、ここではランドローバーが独占していたが、1979年に初めて2台の4気筒ランドクルーザーが採用され、今ではランドクルーザーの独壇場である。かつて駆動装置はすべて4WDに固定され、安全上の理由から4速目のギヤははずされていたというのが、現在では標準のままである。

ワークショップは地下で働くランドクルーザー120台の整備を受け持っている。エンジンやミッションを降ろすという重整備以外のすべてのメンテナンスをここで行うことができるので、基本的には一旦地下に降りてきたランドクルーザーは死ぬまでここで暮らす。もともと、最近では定期的に車両を入れ替えていくので厳密な意味で朽ち果てるまでここで働くクルマはない。すでに最新のV DJ 78や79も導入済みであった。

### アーネスト・ヘンリー・鉱山

地下鉱山を取材し終えたその足で、そこから100キロ東にあるクロンカリーの町まで移動した。翌日に予定されていたアーネスト・ヘンリー・銅・金鉱山の露天掘り鉱山取材に備えるためだ。

朝7時、テント内の携帯電話が鳴る音で目が覚めた。

「午後予定されていた発破が朝9時に変更になった。今すぐ鉱山事務所まで来い。8時までに来れば間に合う。後で会おう。」

発破の責任者がまくし立てた。パワーシャベルを残して全ての人員、車両が退去し、静まり返った鉱山の穴が目の前に広がる。1段16メートルの高さで掘り下げられたすり鉢状の穴は直径1キロ超、地表からの深さは現在400メートルに達する。

突然、穴の底で赤黄色い光がジグザグに走る。それに続いて腹の底に響くような振動が伝わり、大きなくもるような爆破音が静寂を破る。中規模とはいえ圧倒される光景だった。最大規模になると一度に50万トンの鉱石を発破すると

いうから全てにおいてスケールが違う。

立ち入り制限が解除になると同時に全員が一斉に穴底の現場へ駆け下りていく。私が着いたときには78系ユート、トウルービー、新型V DJ 79などのランドクルーザーが働いている。つもとどおりの騒々しい日常に戻っていた。

中でも目についたのはH Z J105スタンダード・バンを改造したデュアルキャブピックアップの多さだ。鉱山内での作業とはいえ、少しでもゆとりと乗り心地良く、かつ機材の運搬ができる四駆が求められている。需要も多く、オーストラリアにはこのような改造を手がける専門の会社がいくつもあ

### 絶対的な信頼

ふたつの鉱山で容赦なく使われるランドクルーザーの姿を見た。しかしその陰にはランドクルーザーを愛するメカニックの入念な整備があった。パーツの迅速な供給、生産車にすぐに反映される不具合の改善、車両開発技術者の頻繁な訪問……。そこにはユ

ザー、メーカーが一体となつて、この車なら信じられる、命を預けられるという絶対的な信頼性、耐久性、安全性伝説が作り上げられていた。

ランドクルーザーがなければ生活が成り立たない。そう言っても過言ではないアウトバックでは、ユーザーのみならず一般の人々もランドクルーザーに対して家族への愛情と同じような感情を抱いているように思えた。

幸せなクルマである。



右はH Z J105を改造したデュアルキャブユート。後部座席後ろでボディを取り付けてある。左の新型V8ターボディーゼルのV DJ 79は人気が高く納車が追いつかない。



### The Toyota LandCruiser Legend

ふたつの鉱山での取材を含め、約2年間を費やしてこのDVDが完成した。ランドクルーザーがオーストラリアに上陸して50年。このDVDにはランドクルーザーと人々の生活、その発展の歴史がぎっしり詰め込まれた。まさにファンのための記念碑的ドキュメンタリーだ。

- DVD-video、片面1層、16:9、リージョン・フリー
- 価格：日本語版2,500円(消費税込)
- 連絡先：有限会社ジオスコープ
- e-mail: info@geoscope-inc.com
- プロモーション映像、購入は下記ホームページへ
- www.geoscope-inc.com

地面に穴を掘り爆薬を装てんする発破作業班が使うH Z J79ユート。工具・ツールが荷台にがっちり架装された作業棚に収納されている。大型ドリル車のそばに止められ、作業員の大きな工具箱となっている。

